

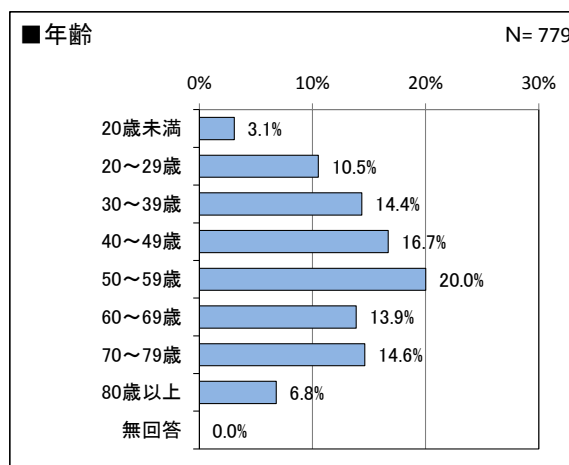
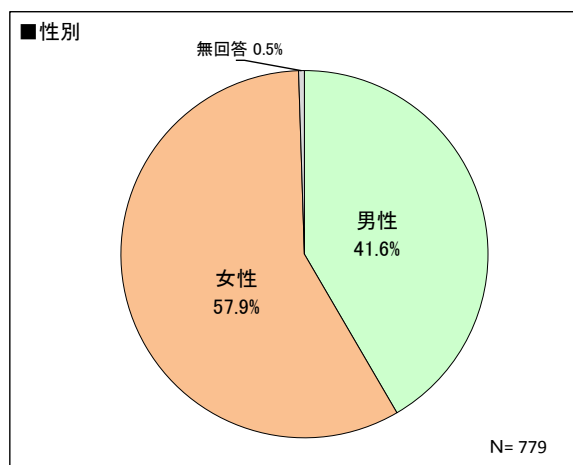
戸田市民の防災意識に関するアンケート調査

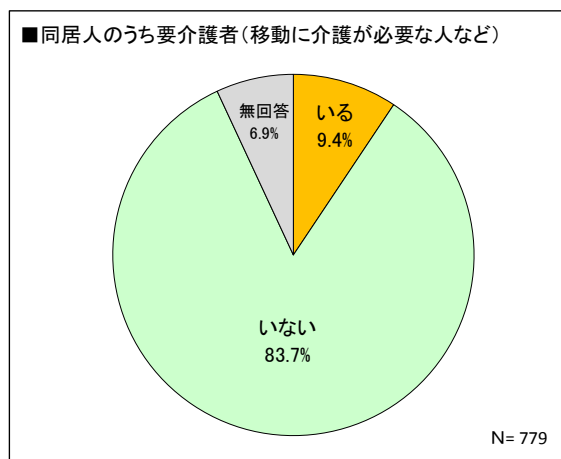
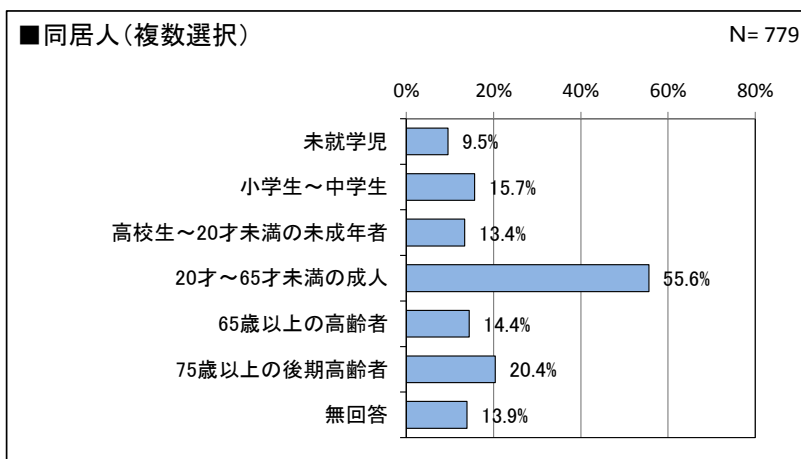
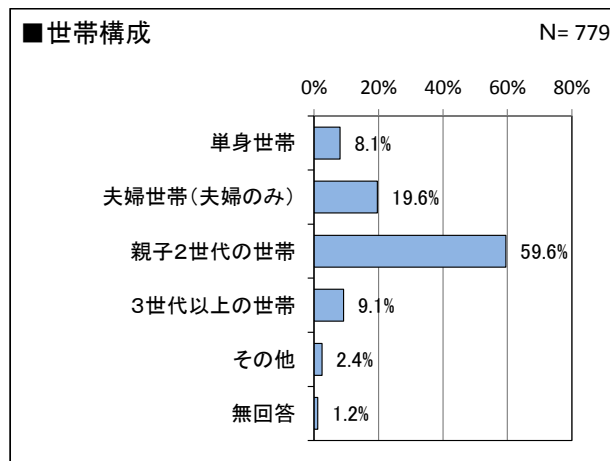
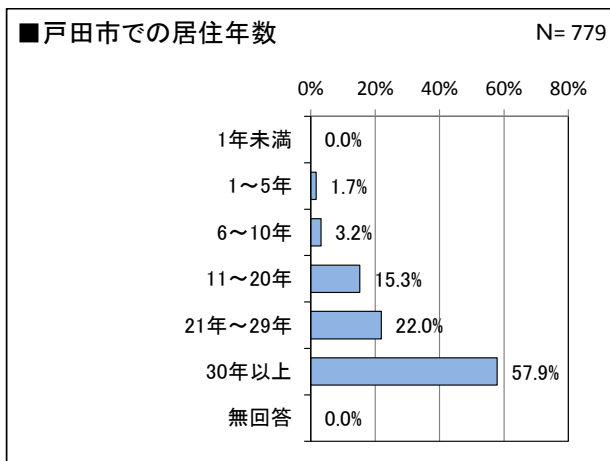
調査結果の概要（最終値利用）

令和2年1月21日

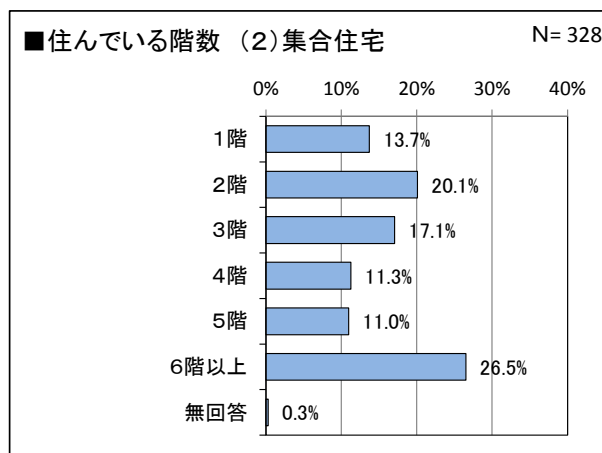
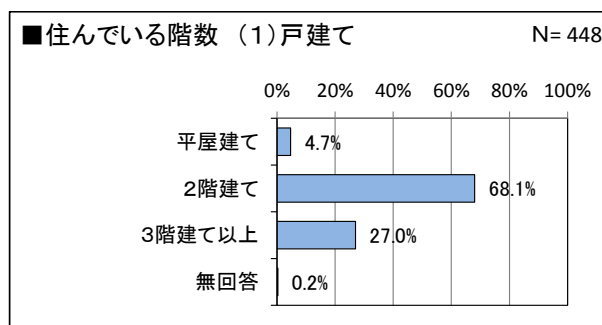
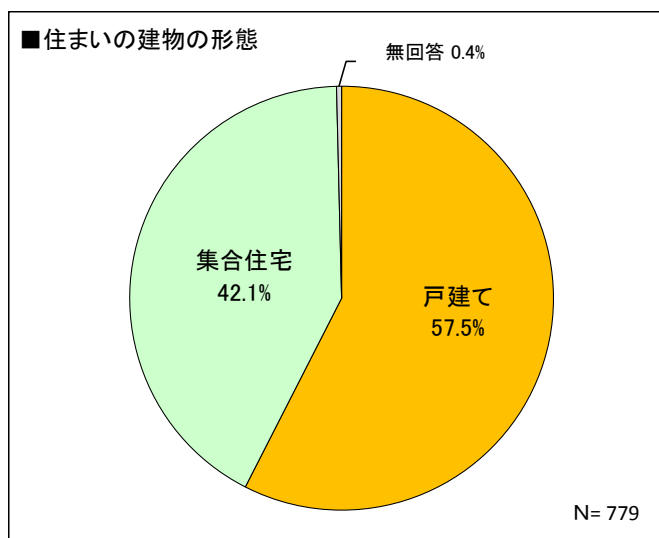
●調査の概要

- ◇対象者 戸田市民 2,000人
住民基本台帳より無作為抽出
- ◇調査期間 2019(令和元)年10月上旬～中旬
- ◇調査方法 郵送による配布・回収
- ◇回答者数 779人(回収率39.0%)





●回答者の住まいの状況

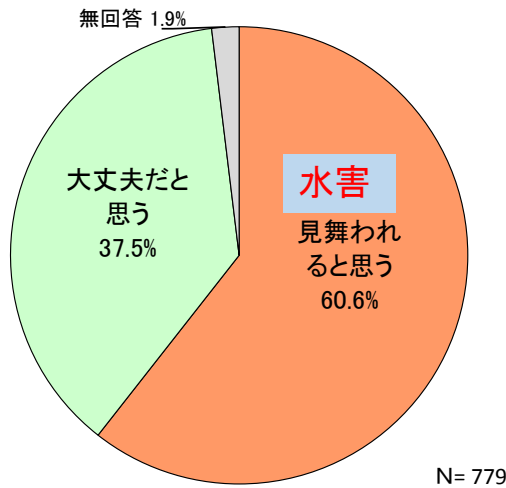


● 災害や防災への関心、備えなど

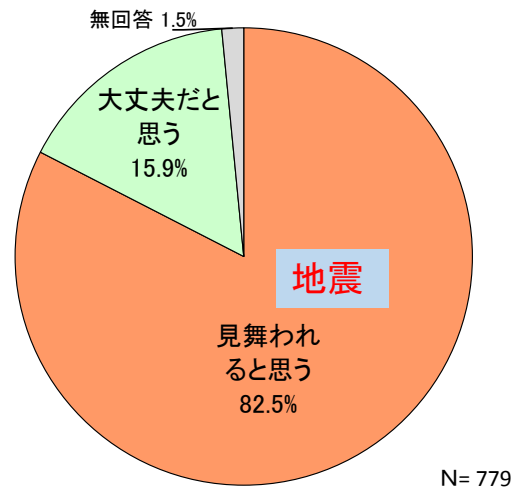
問 30年以内に大きな災害に見舞われると思いますか？

- ・大水害は61% ……4割近くは大丈夫だと思っている。
- ・大地震は83%

(1) 荒川が氾らんするような大水害



(2) 震度6強以上の大地震

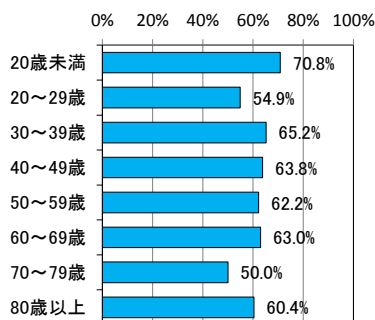


「見舞われると思う」とした割合

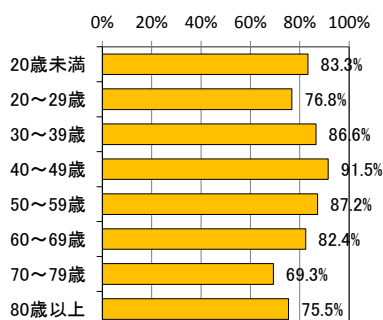
- ・20歳代と70歳代が幾分低い
- ・年齢での明確な差はない
- ・先の台風(19号)・豪雨災害以降の回収分で割合が増加

■ 年齢による区分

(1) 大水害 N = 779

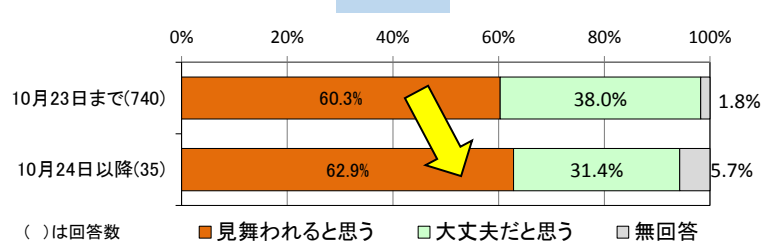


(2) 大地震 N = 779

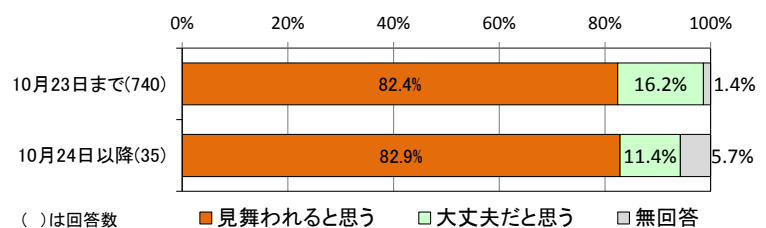


■ 調査票の回収期間による区分

(1) 荒川が氾らんするような大水害 N = 775 (回収日不明を除く)



(2) 震度6強以上の大地震 N = 775 (回収日不明を除く)



・20年以上、戸田市に住んでいる方は、『災害に見舞われない』との意識が高い傾向にある。

荒川が氾らんするような大水害

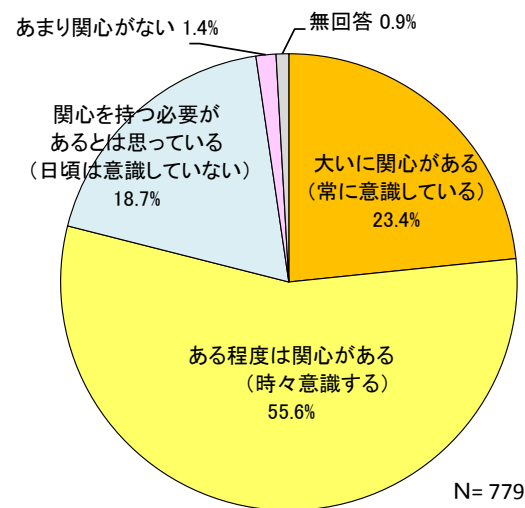
居住年数	見舞われると思う	大丈夫だと思う	無回答	合計
1年未満	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
1～5年	69.2%	30.8%	0.0%	100.0%
6～10年	68.0%	28.0%	4.0%	100.0%
11～20年	70.6%	29.4%	0.0%	100.0%
21年～29年	55.6%	43.3%	1.2%	100.0%
30年以上	59.2%	38.1%	2.7%	100.0%
全体	60.6%	37.5%	1.9%	100.0%

震度6強以上の大震災

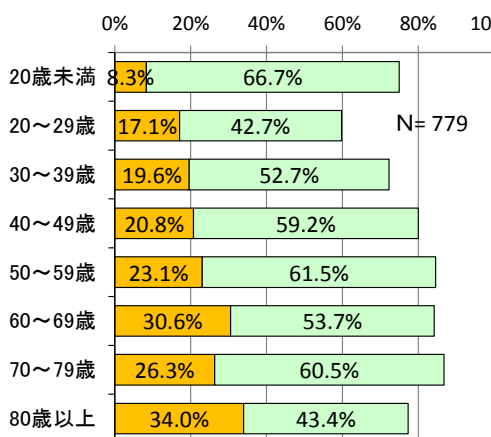
居住年数	見舞われると思う	大丈夫だと思う	無回答	合計
1年未満	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
1～5年	84.6%	15.4%	0.0%	100.0%
6～10年	88.0%	8.0%	4.0%	100.0%
11～20年	88.2%	11.8%	0.0%	100.0%
21年～29年	80.1%	19.3%	0.6%	100.0%
30年以上	81.6%	16.2%	2.2%	100.0%
全体	82.5%	15.9%	1.5%	100.0%

問 災害や防災に関心がありますか？

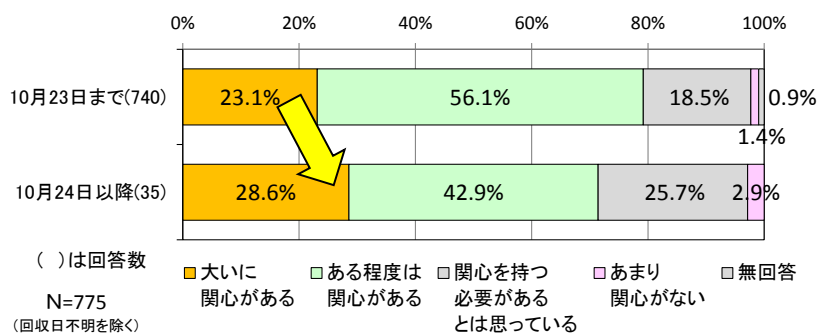
- ・約8割は関心がある
- ・ただし、20歳代は6割
- ・「大いに」は若いほど低い
- ・39歳以下は20%未満
- ・先の台風(19号)・豪雨による災害により関心が高まった
- ・「大いに」は23%→29%



■年齢による区分 「大いに」「ある程度」の割合

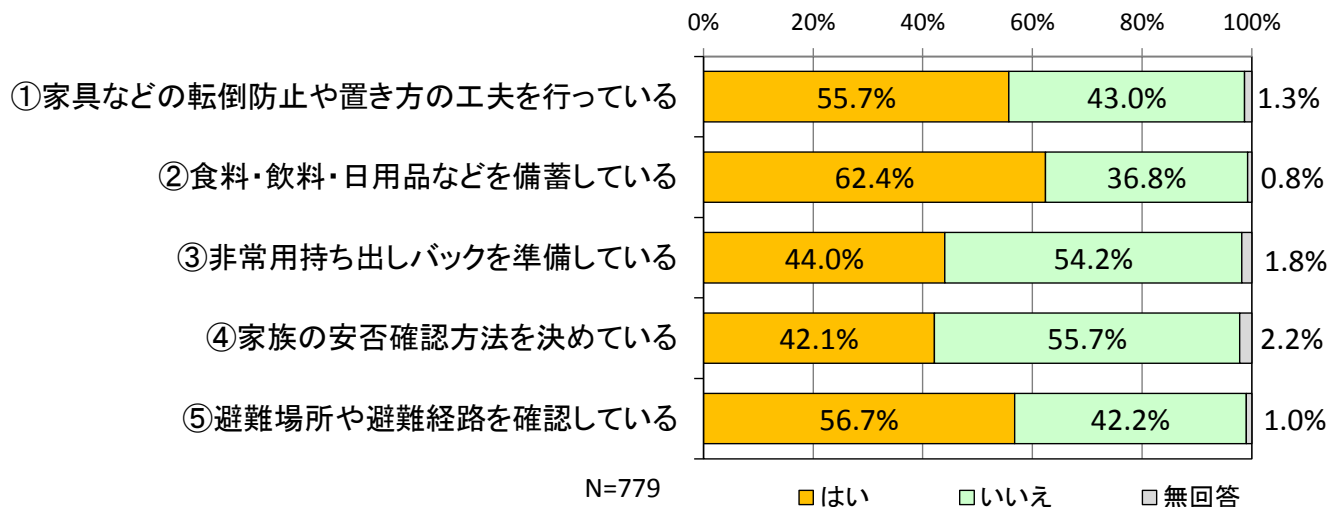


■調査票の回収期間の区分



問 以下のような災害への備えを行っていますか？

・「備蓄」は6割強
 ・「家族の安否確認方法」は4割

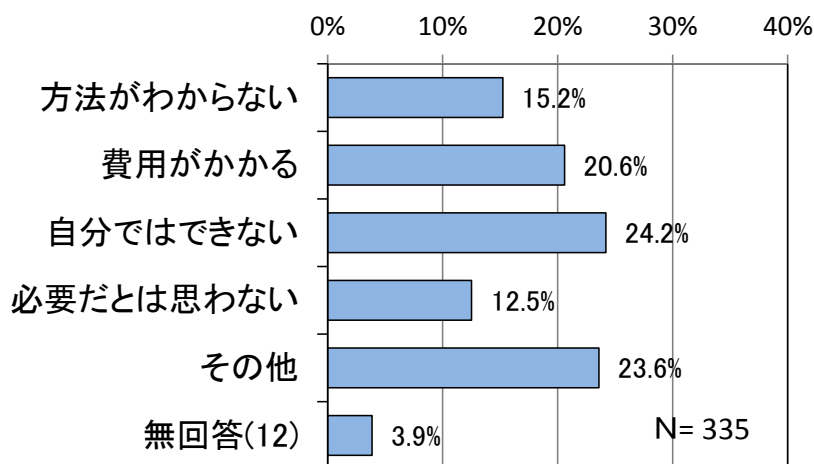


	家具の転倒防止対策実施	食料品などの備蓄準備	非常持ち出しバック準備	家族の安否確認の決定	避難場所や経路の確認
戸田市	56.1%	62.4%	44.4%	42.2%	56.9%
埼玉県全体	63.8%	64.1%	42.6%	24.5%	36.0%

埼玉県全体 令和元年度県政世論調査結果(埼玉県HPデータより) ※データを戸田市と比較するため一部加工

問 「① 家具などの転倒防止や置き方の工夫」を行っていない理由は何ですか？

・「方法がわからない」+「自分ではできない」が4割
 ・その他は、「転倒する家具がない」「面倒、大変だから」等

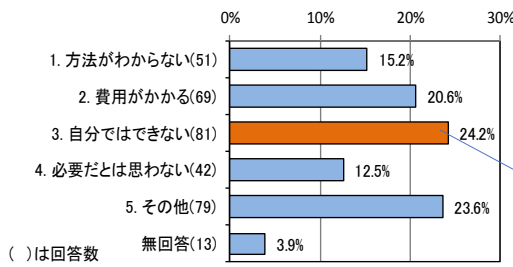


埼玉県全体 令和元年度県政世論調査結果(埼玉県HPデータより) ※データを戸田市と比較するため一部加工

	方法が分からない	費用がかかる	自分ではできない	必要だと思わない	その他
戸田市	15.2%	20.7%	24.6%	12.8%	23.1% (面倒を含む)
埼玉県全体	—	32.3%	21.7%	14.7%	41.4% (面倒である)

・家具転倒防止などの作業が『自分でできない』方の多くは、60才以上の女性である。

問2-4 「① 家具などの転倒防止や置き方の工夫」
を行っていない人の理由 N= 335

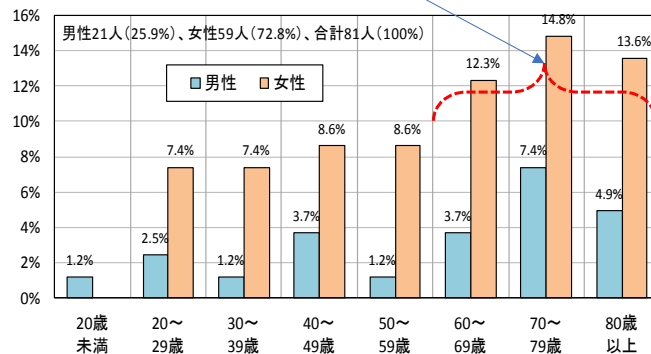


11/19会議での質問関連

「家具などの転倒防止や置き方の工夫を行っていない理由」について、「自分でできない」の回答者は高齢者か身体的に不自由な人なのか

60才以上の女性

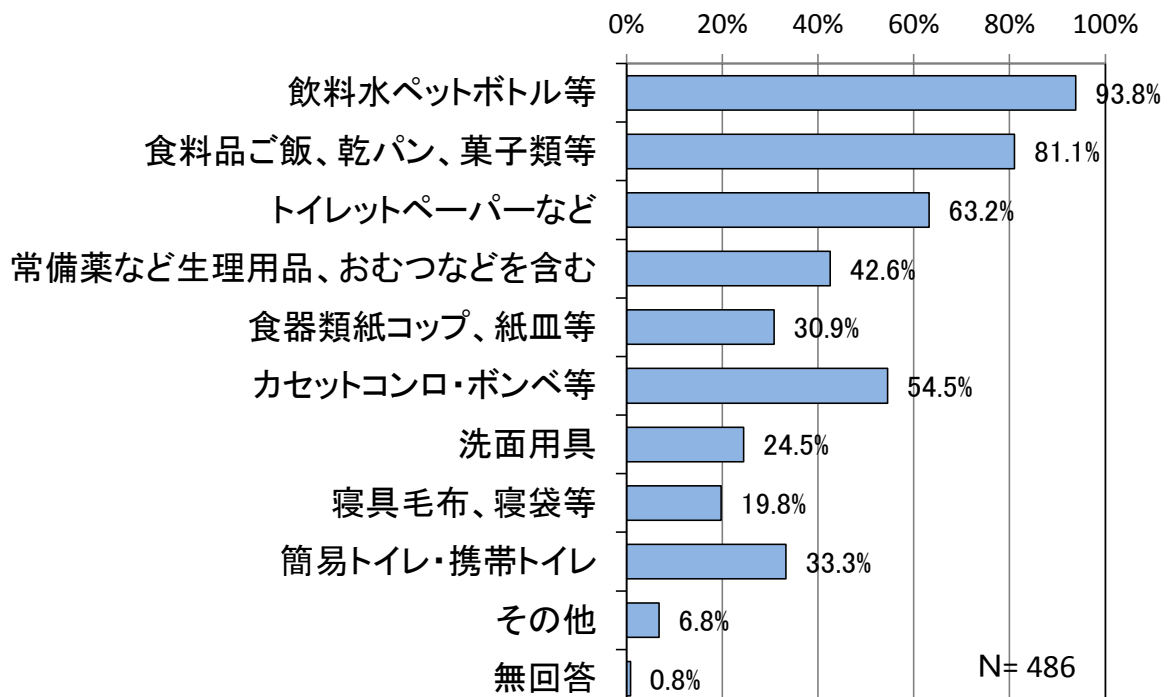
「自分でできない」とした人の男女別・年代別構成比(全体を100%とした割合)



※身体的に不自由な方かを把握できるアンケート情報がなくこの点は不明

問 どのようなものを備蓄していますか？

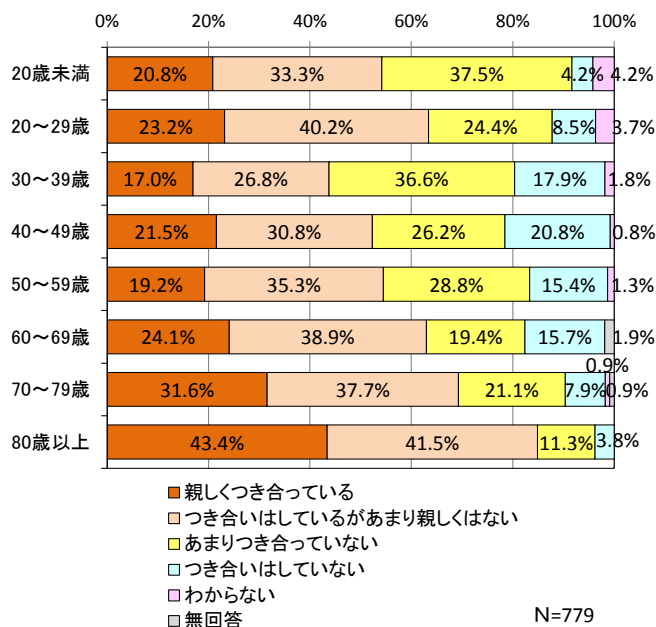
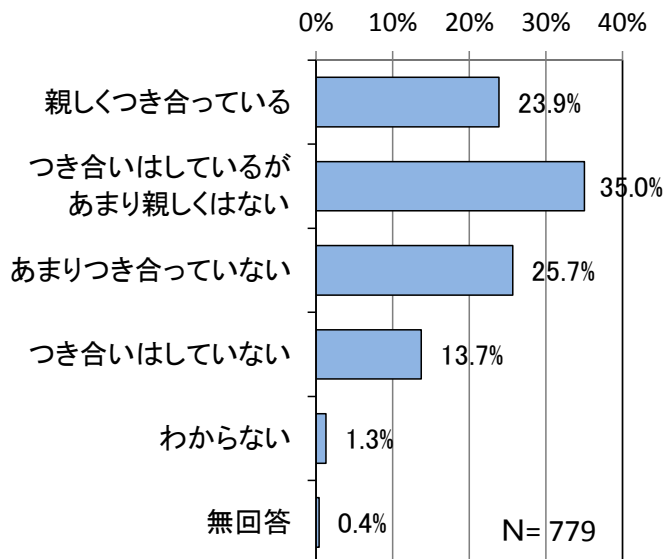
- ・「飲料水ペットボトル等」は、ほぼ全員(94%)
- ・「食器類紙コップ、紙皿類」「洗面用具」が3割程度と低い



●地域とのつながりや防災活動

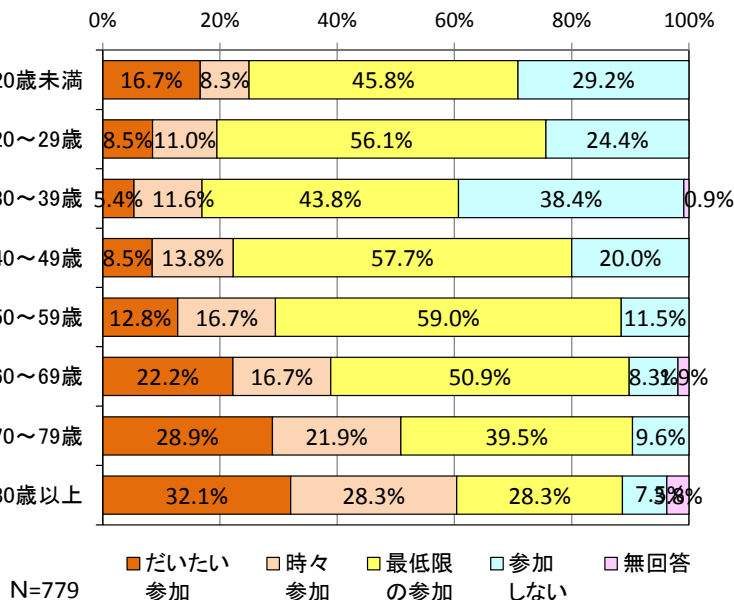
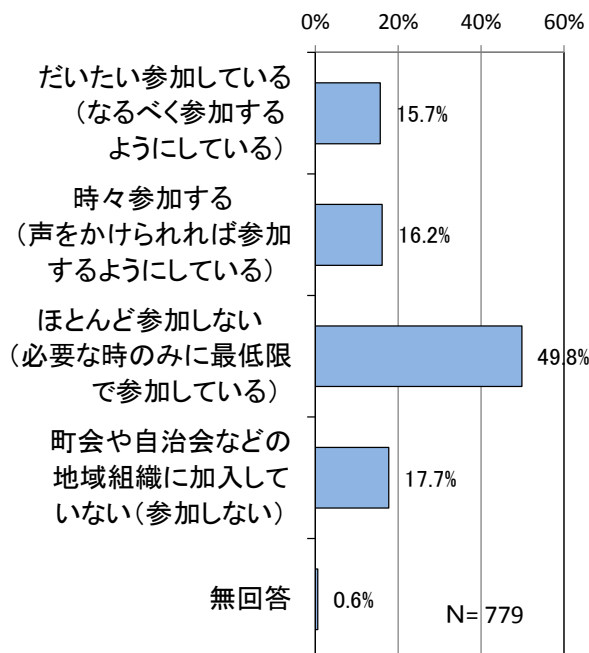
問 ご近所とのつきあいはどの程度ですか？

- ・「親しくつき合っている」は24% … 後期高齢者は30%超
- ・「あまり」「していない」が4割弱 … 30歳代は50%超



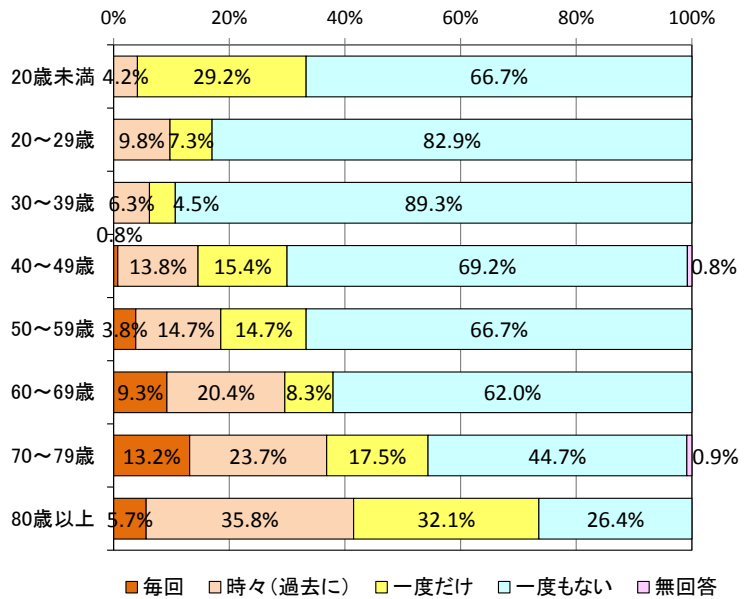
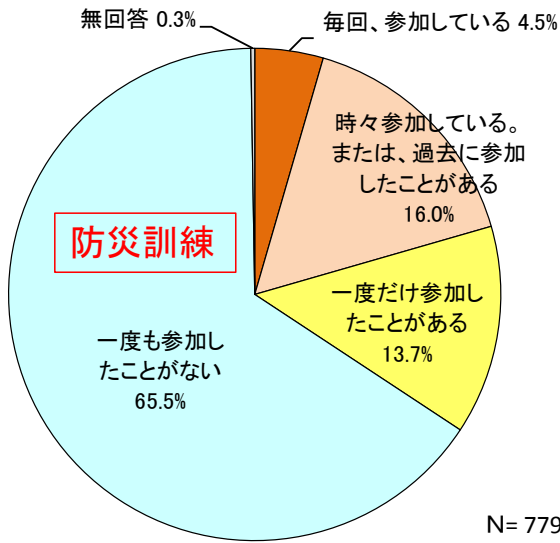
問 町会・自治会などへの活動参加どの程度ですか？

- ・「参加」(たいだい+時々)は32%
- ・70歳以上では50%超
- ・49歳以下では20%前後



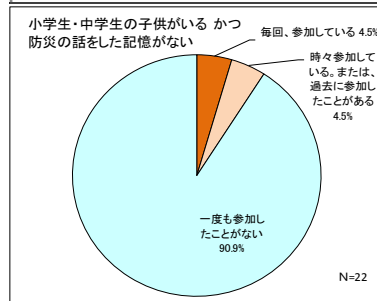
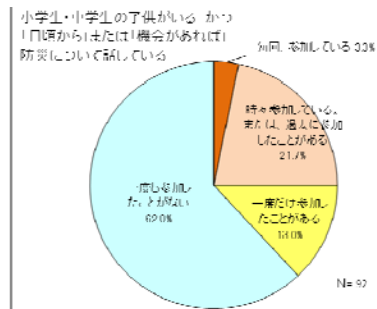
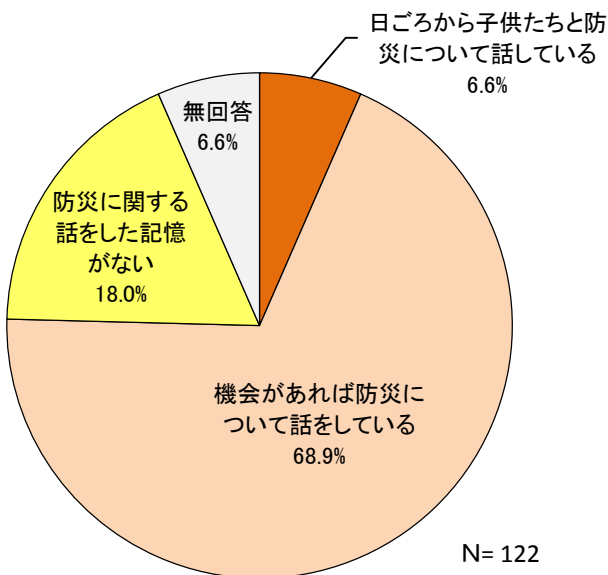
問 戸田市総合防災訓練に参加したことがありますか？

・「一度も参加したことがないが」66% (約3分の1)
 - 20歳代は83%、30歳代は89%



問 子供たちと防災について話し合ったことがありますか？ (小学生・中学生の同居者がいる回答者)

・「日頃から」「機会があれば」防災の話をする人は76%
 ・「話した記憶がない」は18%
 ・子供と防災について話す家庭は、防災訓練に参加する傾向がある。

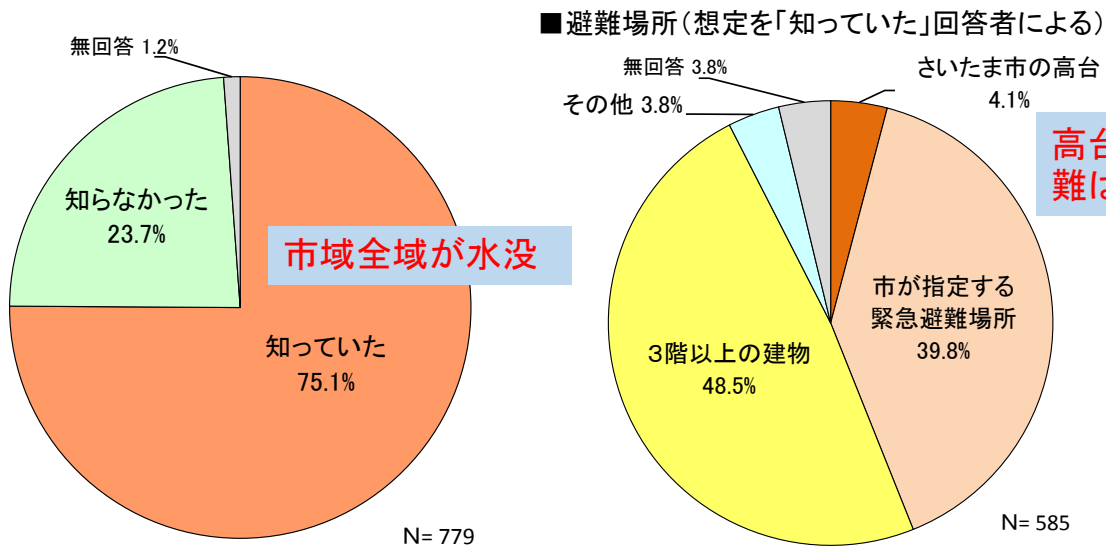


11/19会議での質問関連
 「戸田市総合防災訓練に参加したことがあるか」では防災訓練の参加が少ないが、「子供たちと防災について話し合ったことがあるか」では子どもに話している回答が高い。この開きの差は何か？

●戸田市で起こる災害の想定について

問 「荒川が氾濫すると市域全域が**水没(浸水)**する」と想定されていますが、このことをご存じでしたか？
どのように避難しますか？

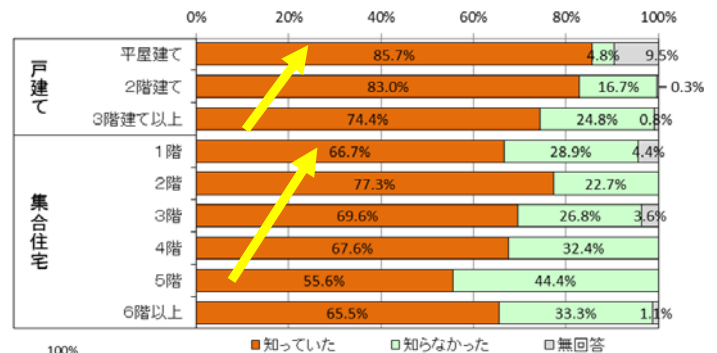
- ・「知っていた」は75% (4分の3)
- ・避難するところは、「3階以上の建物」が49% (半数)



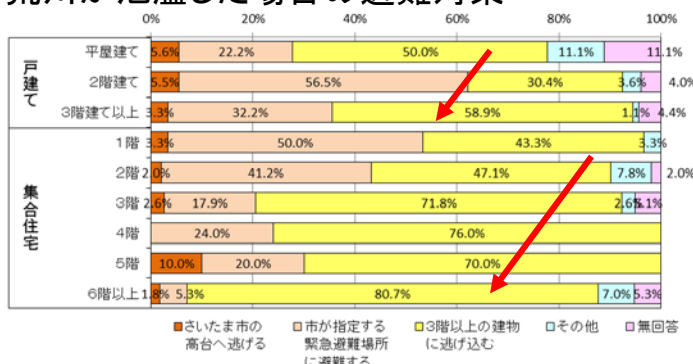
- ・市域全体が水没する意識は、戸建てや低層階に住む方の方が高い傾向にある。
- ・避難する場所は、高層階に住み方ほど『3階以上の建物』に逃げ込む傾向がある。

住んでいる建物の階数による違い

荒川が氾濫すると市域全体が水没する認識

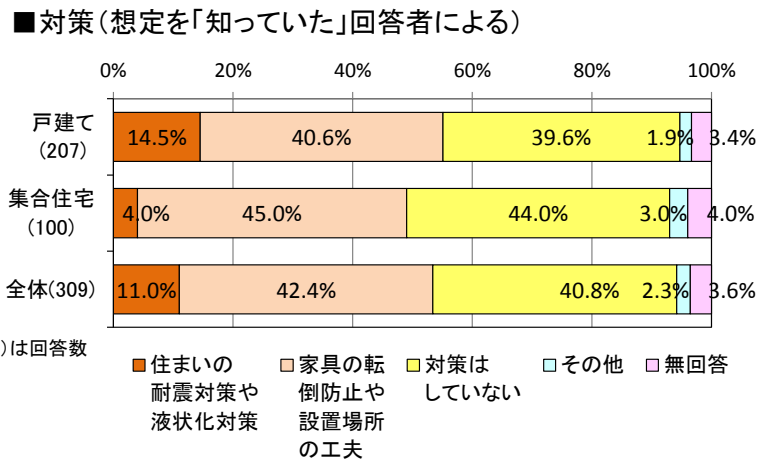
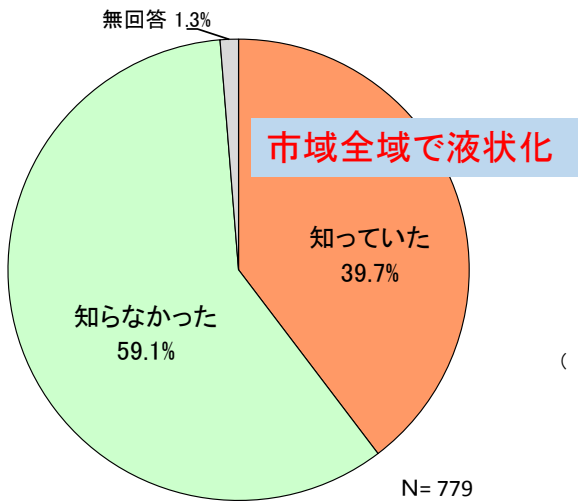


荒川が氾濫した場合の避難対策



問 「最大震度6強の地震が想定され、市内全域で揺れと液状化により建物が損壊する可能性が高い」と想定されていますが、このことをご存じでしたか？
どのような対策をしていますか？

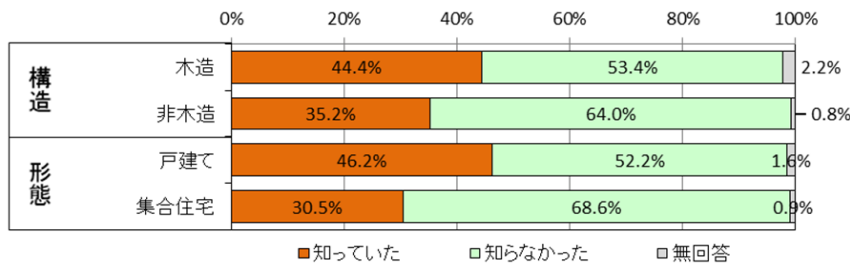
- ・「知っていた」は40%
- ・「対策をしていない」は41% …… 「戸建て」も40%



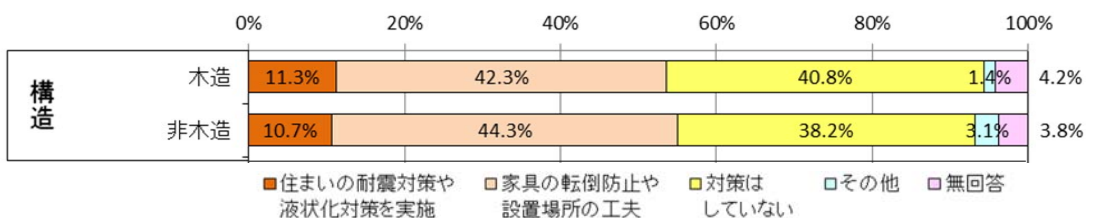
- ・住まいが木造あるいは戸建ての場合の方が、液状化を認識している。
- ・建物の構造によって、用いられる対策については大きな変化はない。

住まいの構造・形態による違い

液状化するかの認識



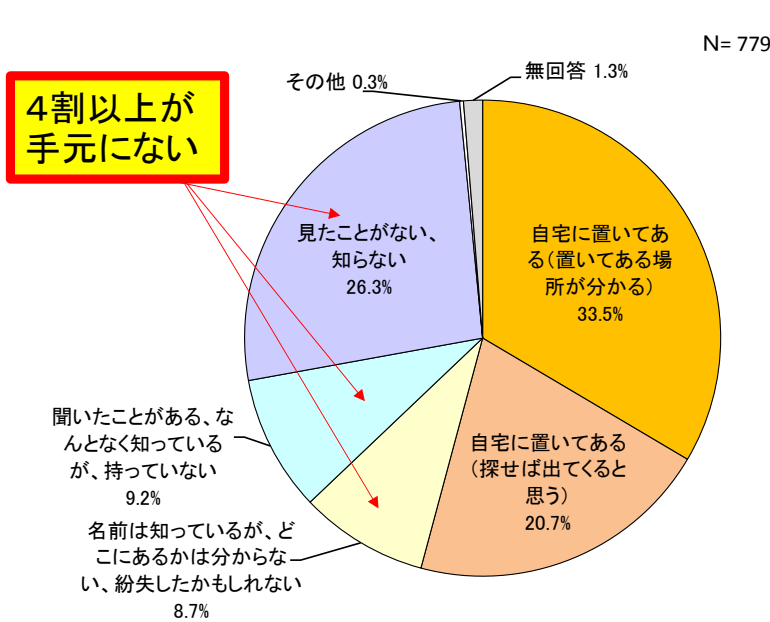
対応している震災対策



●戸田市の防災対策について

問 戸田市ハザードブックをご存じですか？

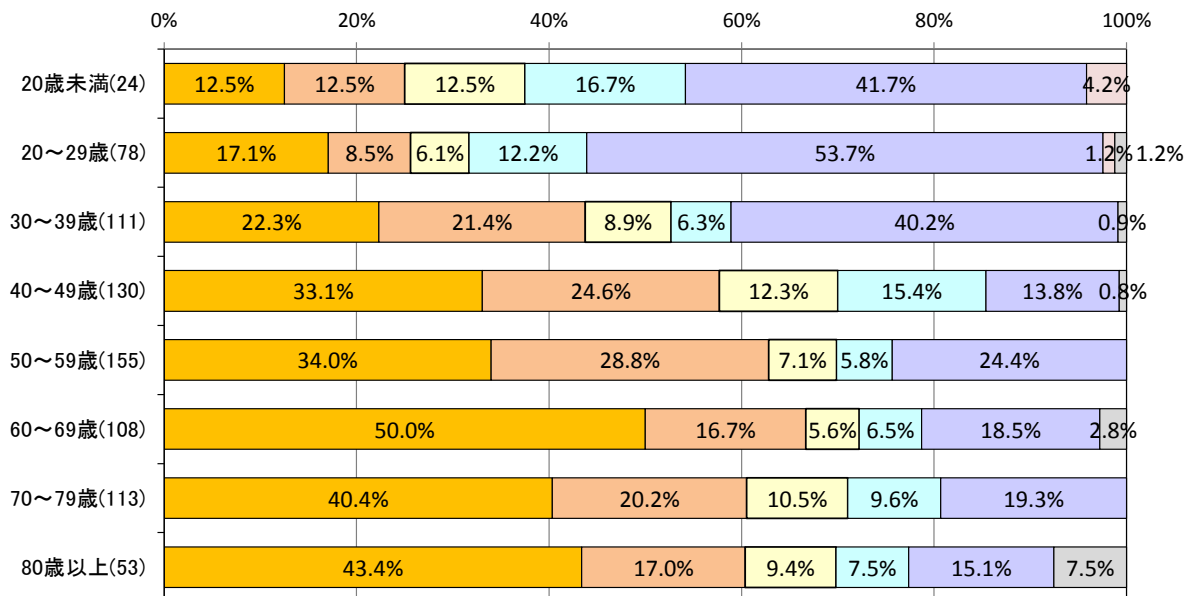
- ・所持し所在が分かる人は34%
- ・44%が手元にない（見たことがない・持っていないなど）



- ・若い世代に認知されていない・・・所在がわかる人は2割未満
- ・40・50代でも「場所が分かる」は3割程度

戸田市ハザードブック「災害を『我が事』として考える本」の認知

N=779



()は回答数

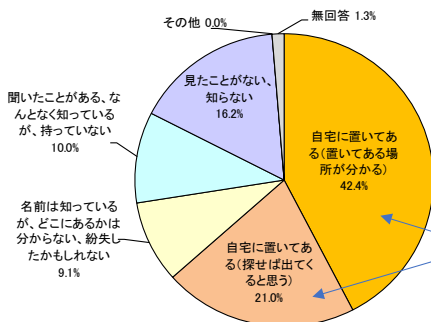
- 自宅に置いてある(置いてある場所が分かる)
- 自宅に置いてある(探せば出てくると思う)
- 名前は知っているが、どこにあるかは分からない、紛失したかもしれない
- 聞いたことがある、なんとなく知っているが、持っていない
- 見たことがない、知らない
- その他
- 無回答

・戸田市ハザードブックを、見たことがない、存在が分からないなどのの方が、液状化に関する情報を知らない。

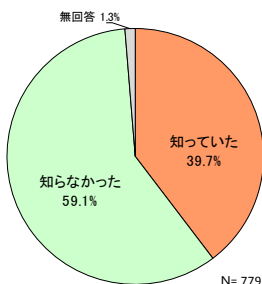
11/19会議での質問関連

「最大震度6強の地震が想定され、市内全域で揺れと液状化により建物が損壊する可能性が高い」ことを知らないことは、ハザードブックを知らないことではないか。

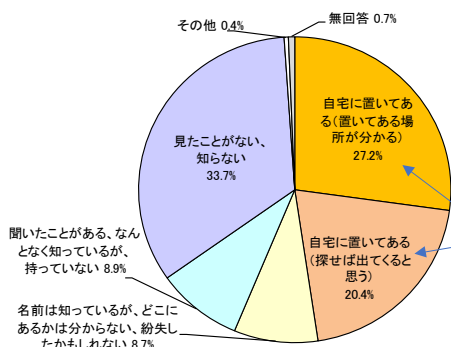
地震の想定を「知っていた」人 N=309



液状化になることを知っている人の63%は戸田市ハザードブックの存在を認識している



地震の想定を「知らなかった」人 N=460

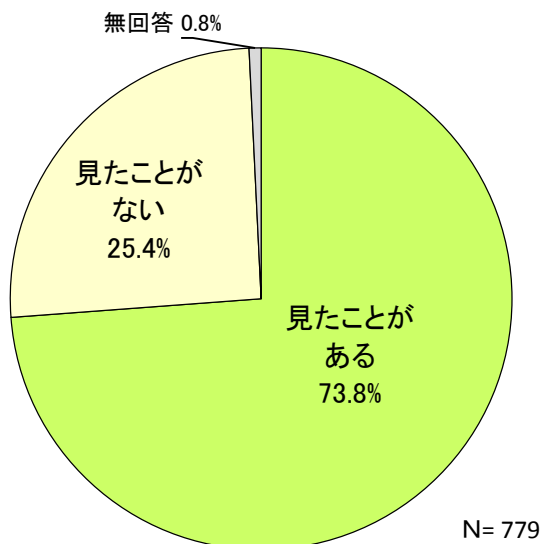


液状化になることを知らない人の48%が戸田市ハザードブックの存在を認識している

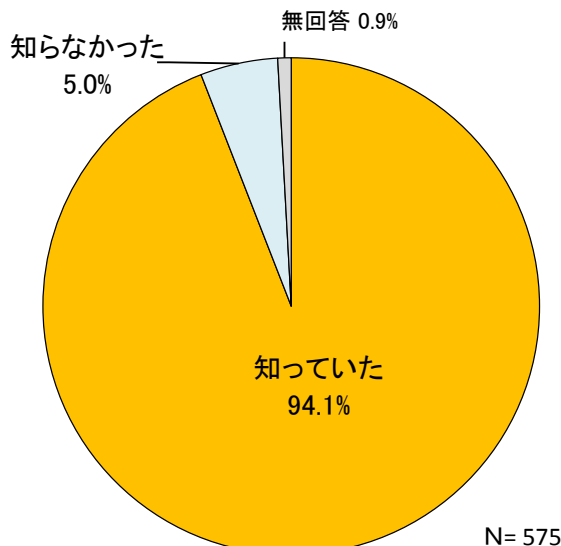
問 浸水の深さを示す「赤いテープ」をご存じですか？

- ・74%の人が「赤いテープ」を見たことがある
- ・うち94%は意味を知っている

■「赤いテープ」の認知



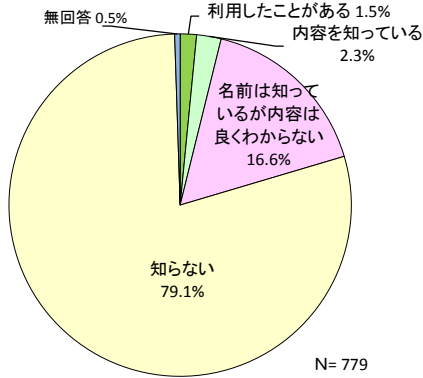
■想定浸水深さを示すことの認知



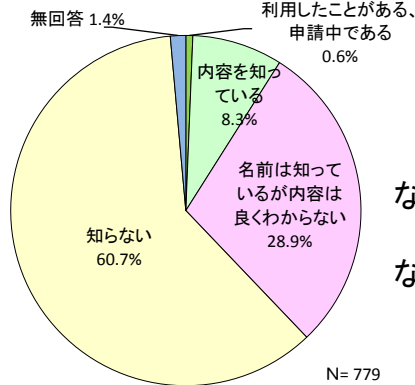
問 戸田市の防災対策をご存じですか？

・各対策とも「内容を知っている」は2割に満たない

■「防災行政無線フリーダイヤル(0120-13-8882)」

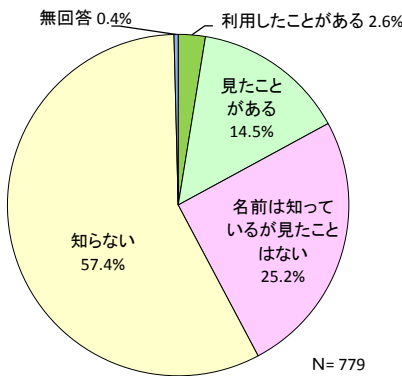


■耐震診断と耐震工事の補助制度

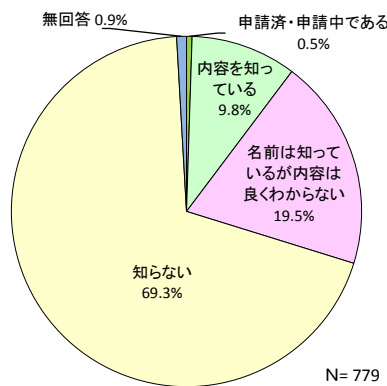


持ち家で制度を知らない方は54%
借家などで制度を知らない方は79%

■土のうステーション



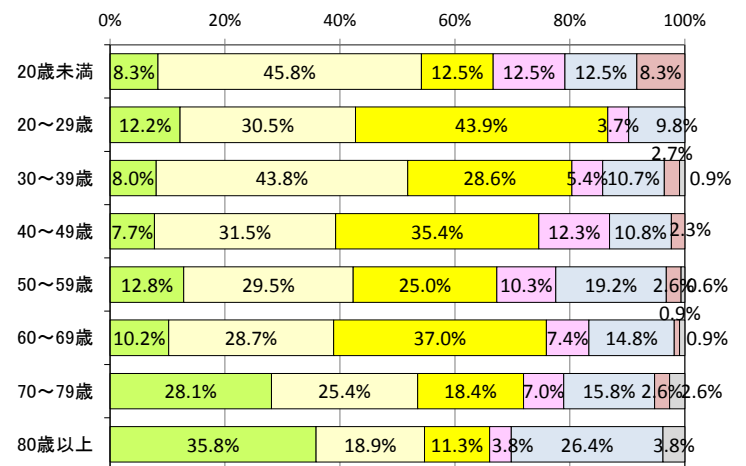
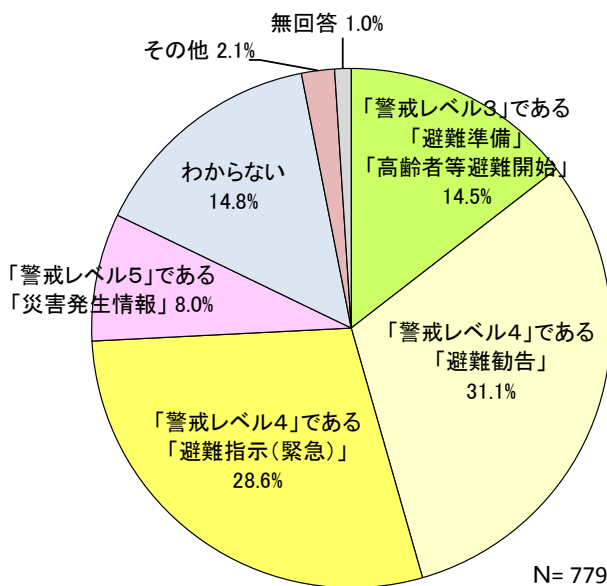
■避難行動要支援者避難支援制度



60歳以上の方のうち
83%が支援制度を
あることを知らない、
内容がよく分からないと
している

問 どのような内容の情報が出たら避難しますか？

・「警戒レベル3」での避難は16%・・・ただし、70歳以上は3割
・「警戒レベル4」での避難は60%
・中高年(50歳以上)で「わからない」が多い

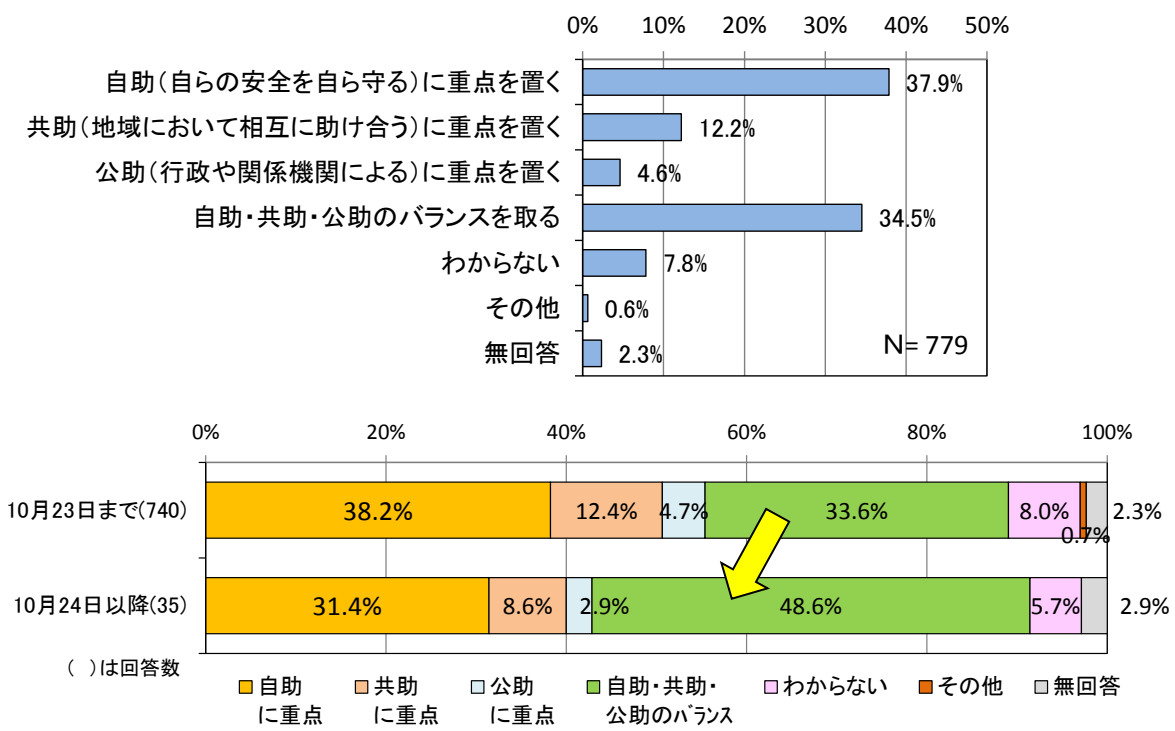


■「警戒レベル3」である「避難準備」、「高齢者等避難開始」
□「警戒レベル4」である「避難勧告」
■「警戒レベル4」である「避難指示(緊急)」
□「警戒レベル5」である「災害発生情報」
□わからない
■その他
□無回答

N = 779

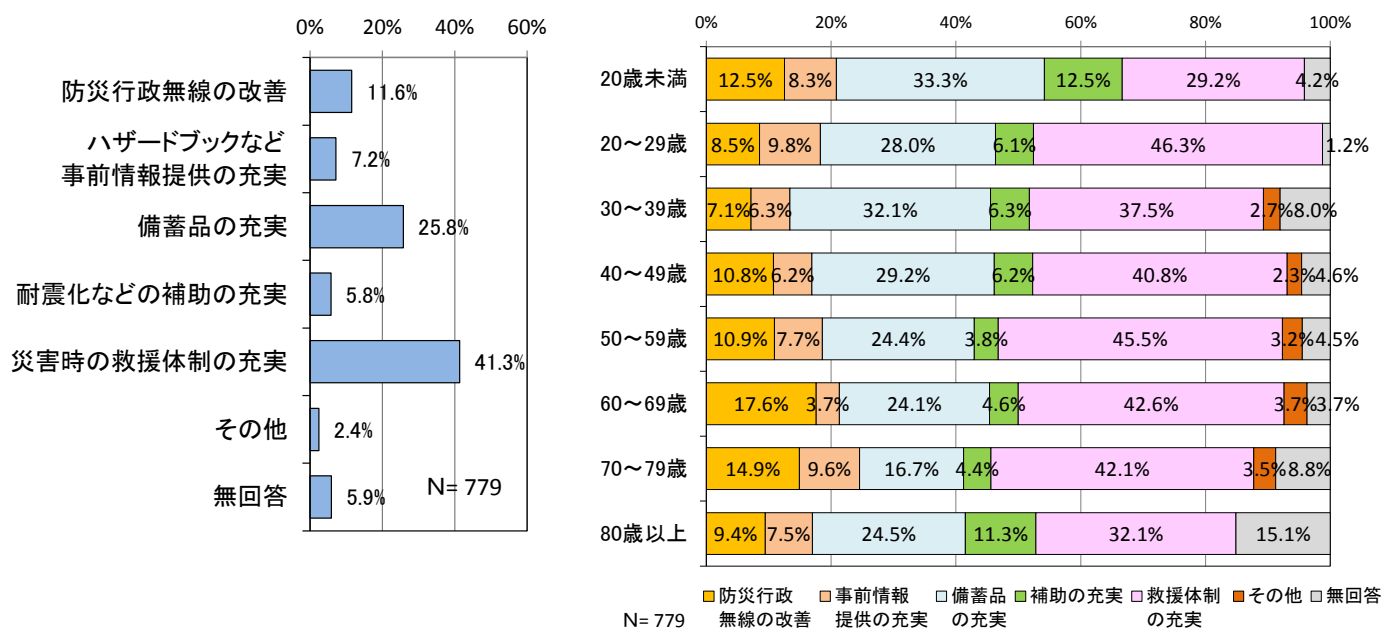
問 災害が発生した場合の対応として重要な観点は？

- ・自助重点が38%、自・共・公のバランスが35%
- ・共助重点、公助重点は少ない
- ・先の台風(19号)により、「自助・共助・公助のバランス」が増加



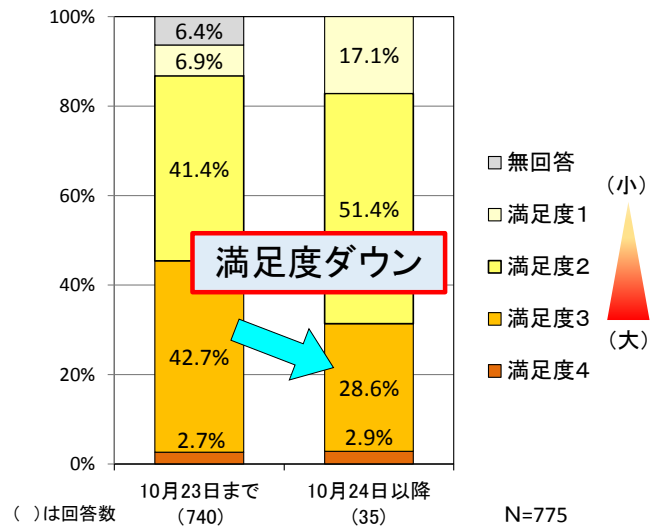
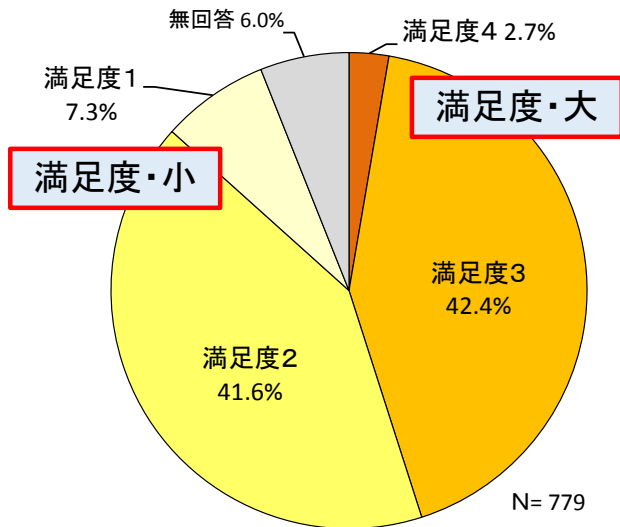
問 公助に対して一番期待されるのは？

- ・「救援体制の充実」が42%、「備蓄品の充実」が26%
- ・年代による差(他の年代より割合が高いもの)
 20代・救援体制、30代・備蓄品、60代・防災行政無線など



問 戸田市が実施している防災対策の満足度は？

- ・満足度4は2.7%、3と2が40%強 ……平均2.4
- ・先の台風(19号)により満足度3の割合が減少



満足度4 (大・満足している) 満足度1 (小・満足していない)

●アンケート結果の整理

- ・戸田市で震度6強以上の震災があると認識する方(83%)や荒川が氾濫すれば市域全体が水没すると認識している方(75%)と、**多くの市民が大災害に見舞われる**考えている。
- ・災害への対応としては、食料備蓄を対応する方(62%)、家具転倒対策を実施する方(56%)、非常持ち出しバック準備する方(44%)、家族との安否確認方法を決めている方(42%)、防災訓練に一度も参加したことがない方(65%)等となっており、大災害に見舞われるとの高い認識を持つ一方で、**災害に対する備えが充分であるとは言いがたい。**

- ・荒川の氾濫に対しては、高台に避難する意識を持っている方(4%)に対して、3階以上の建物や避難所に避難すると回答した方(89%)となっており、市域全体が**長期に渡って水に浸かることを認識していない可能性**もある。
- ・戸田市が全戸に配布した『戸田市ハザードブック』の所在が分からない方や見たことが無い方(44%)、防災行政無線フリーダイヤルを知らない方(79%)、避難行動用支援者避難支援制度を知らない方(69%)など、戸田市が発信している**防災情報や支援策を十分に活かしていない**傾向があると考えられる。

【防災基本条例に向けて】

- ・戸田市では災害に見舞われると市域全体に被害がおよぶ。
- ・そこで、被害を大きくさせないために『**予防対策に重点**』をおいた条例としていくことが望まれる。
- ・特に、戸田市が発信している防災情報や支援策を市民の方々に充分理解してもらえるために『**防災教育の充実**』を図り、自分たちで災害に対応するための**事前準備(自助)**を始めるとともに、その**準備を近隣の方々と共有(共助)**していくことが進められる条例としていく。